

# 鳥取県の 森林・林業・木材産業



鳥取県



# 鳥取県のプロフィール

鳥取県は、中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと、東西にやや細長い県です。北は日本海に面し、鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっています。山地の多い地形ながら、三つの河川の流域に平野が形成され、それぞれ鳥取市、倉吉市、米子市が流域の中心都市として発達しています。気候は比較的温暖で、春から秋は好天が多く、冬には降雪もあるなど、四季の移り変わりは鮮やかです。また、台風などの自然災害が少なく、気候条件に恵まれています。

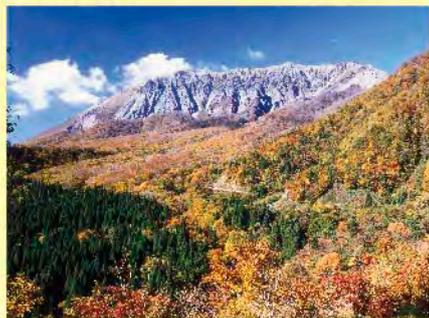
面積:3,507km<sup>2</sup> 人口:約59万人 世帯数:約21万世帯  
市町村数:4市14町1村 県庁所在地:鳥取市



## 鳥取県の自然

### 大山

中国地方の最高峰大山には西日本最大級のブナ林が広がり、貴重な動植物を育てています。山頂付近では、日本最大の面積を誇るダイセンキヤラボク純林が群生し、特別天然記念物として保護されています。



### 鳥取砂丘

鳥取砂丘の特徴は広さとともに起伏の大きな砂丘列が見られることです。一面に広がる砂のふるさは中国山地で、風化・侵食された岩石が砂となって千代川から日本海に流れ着き、風によって海岸に打ち上げられ、長い歳月をかけて鳥取砂丘となったと言われています。



### 浦富海岸

県東部にある浦富海岸は、山陰海岸国立公園に指定された景勝地で、文豪・島崎藤村が、その息を呑む美しさを「神秘の幽境」と称したほどです。

なお、鳥取砂丘、浦富海岸を含む京都府京丹後市までの東西約110kmのエリアは「山陰海岸ジオパーク」として、「世界ジオパーク」に認定されています。



## 鳥取県の特産

鳥取県は、豊かな自然を背景に果物、魚、カニなど、海の幸や山の幸が豊富にあります。

また、海岸部では特色ある砂地農業が営まれ、全国に知られる特産品である砂丘らっきょうを生産しています。

### 松葉がに

冬の味覚の王様と言われる松葉がに。鳥取県西部に位置する境漁港は、松葉がにを含むカニ類の水揚げ量が日本一の港です。



### 鳥取すいか

大玉で甘みたっぷりの「鳥取すいか」は、全国第4位の産出額(H22)を誇っています。



### 二十世紀梨

二十世紀梨は鳥取県を代表する果物であるとともに、東南アジアやアメリカなど海外にも輸出され、高級感あふれる果物として親しまれています。



### 鳥取和牛オレイン55

オリーブオイルの主成分でもあるオレイン酸を豊富に含んだ「鳥取和牛オレイン55」は、まろやかでエレガントな味わいがポイントです。



### 新甘泉

梨の新品種「新甘泉」は糖度が約14度と圧倒的な甘さが特徴です。



# 鳥取県の森林

本県の森林は、県土の約74%に当たる258千haを占めており、木材等の生産だけでなく、県土の保全、水資源のかん養、地球温暖化防止などの多様な機能を有し、県民の生活に重要な役割を果たしています。また、これら森林の公的機能の価値は、全国で70兆2,638億円、鳥取県では、8,227億円と評価されています。

	全国	鳥取	順位
土地面積(万ha)	3,780	35	41
林野面積(万ha)	2,485	26	33
林野率(%)	67	74	13
民有林面積(万ha)	1,736	23	32
うち人工林面積(万ha)	798	12	31
人工林率(%)	46	54	18
国有林面積(万ha)	770	3	28

平成23年度鳥取県林業統計、平成23年国有林野事業統計書  
平成19年度林野庁森林資源現況調査

## 機能の種類

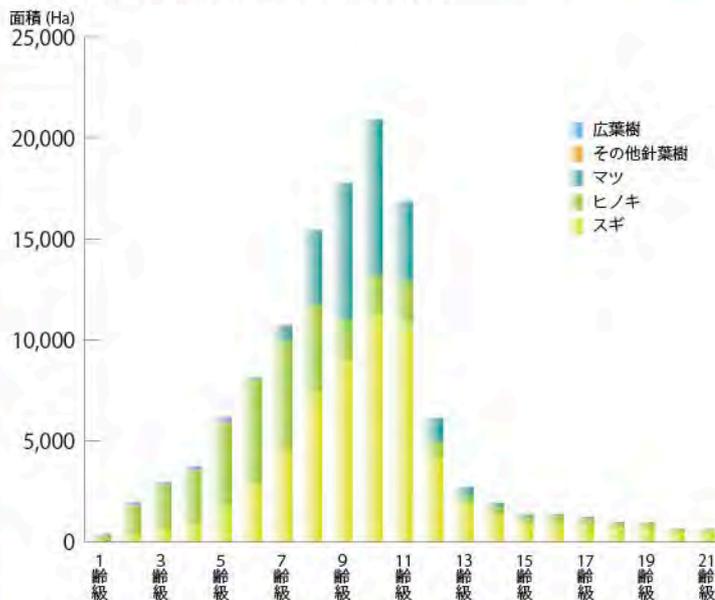
## 評価額

水源かん養	降水の貯留	1,137億円
	洪水の防止	686億円
	水質の浄化	1,485億円
	計	3,308億円
県土の保全	表面侵食防止	3,689億円
	表面崩壊防止	866億円
	計	4,555億円
地球環境保全	二酸化炭素吸収	127億円
	化石燃料代替	11億円
	計	138億円
保健・レクリエーション		226億円
合計		8,227億円

(注)日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」(平成13年11月)から鳥取県分を試算したもの。

## 民有人工林の齢級別構成

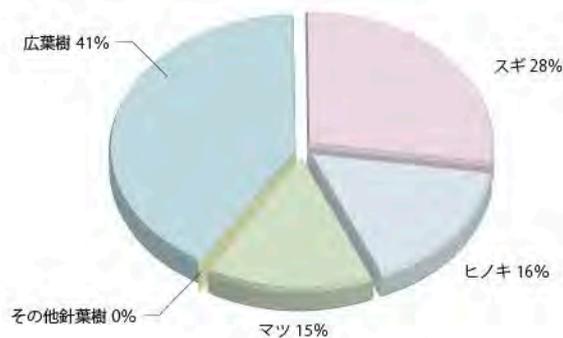
県内の民有林は、約54%が人工林で、そのうち約90%が間伐等の手入れが必要な60年生以下の森林です。



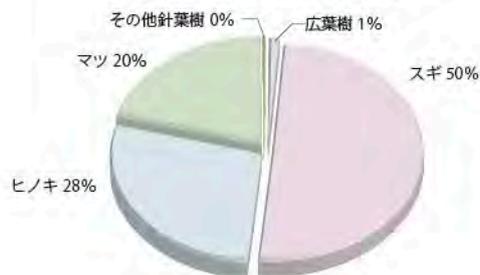
※齢級=5年幅 (例) 1齢級=1~5年生、2齢級=6~10年生

## 樹種別構成

県内の民有林のうちスギが約28%、ヒノキが約16%、マツが約15%、広葉樹が約41%となっています。

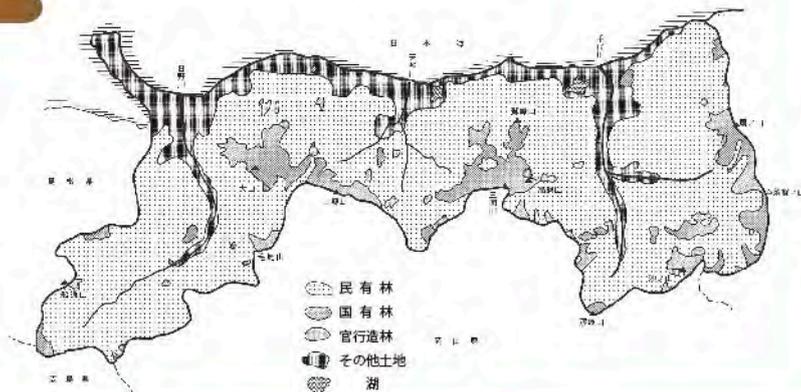


### 【参考:人工林の樹種別構成】



## 所有形態別の森林分布

鳥取県の森林は大部分が民有林です。一方、国有林は中国山地の奥地稜線部に位置しています。



# 鳥取県の林業



**東部地区(千代川流域)**

若桜町、智頭町を中心とした古い歴史をもつ林業地です。



**中部地区(天神川流域)**

大山山麓に広がるマツを中心とする地域です。



**西部地区(日野川流域)**

日野町、日南町を中心とする新興林業地です。

## 鳥取県森林・林業・木材産業再生プラン

森林・林業再生プラン(平成21年12月25日林野庁)や関係者の意見等を踏まえつつ、本県の林業・木材産業を成長産業として飛躍させるとともに、森林を守り育てることを目指して、県民や森林・林業・木材産業関係者、行政機関が連携して取り組むべき課題やそれぞれに期待される役割を明らかにするための指針として、「鳥取県森林・林業・木材産業再生プラン」を平成22年に作成しました。本県の森林・林業・木材産業を取り巻く現状と課題をふまえ、これらの再生と成長産業への飛躍を図るため、以下の取組みを推進することとしています。

### 低コスト林業の推進

### 森林を支える人づくり



### 鳥取県産材の流通・利用拡大

### 県民とともに進める森林づくり

# 低コスト林業の推進

## 集約化の取組

県の地方機関が中心となって森林経営計画の作成支援を行っています。



集落説明会

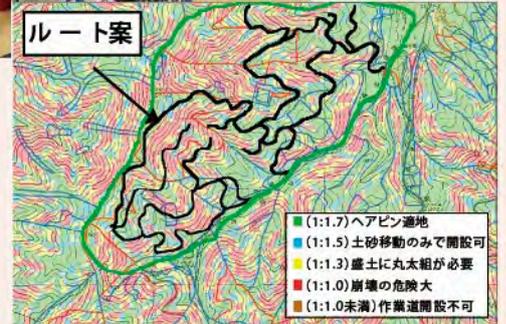
## 路網整備



高性能林業機械の活用



アクセス性の向上



数値標高データを用いた傾斜区分図をGIS（地理情報システム）で作成し、ルート計画に活用しています（路網開設適地を色分けで図示）。

鳥取県では路網整備が加速的に進んでおり、平成18～22年度までの5年間で約450kmの作業道等が新たに開設されました。

## 高性能林業機械等の導入

作業の効率化と安全性の向上に大きく貢献する高性能林業機械の導入を進めています。



木材を運搬するフォワーダ



造材(枝払い、玉切り)を行うプロセス

# 森林を支える人づくり

## 新規就業者の確保

次世代の林業を担う新規就業者の確保を推進しています。



## 高性能林業機械の活用

高性能林業機械を効率かつ安全に活用できる人材を育成しています

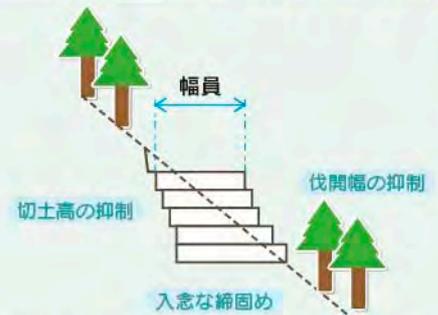


## 鳥取式作業道開設士

鳥取式作業道の開設技術を習得した「鳥取式作業道開設士」を養成しています（平成24年度までに160名を認定）。



## 鳥取式作業道の模式図



「鳥取式作業道」は災害に強く壊れにくいのが特徴です。平成23年の台風12号では、県内の作業道が約100路線被災しましたが、鳥取式作業道の被害はありませんでした。

# 県産材の流通・利用拡大

## 県産材の安定取引

県産材の安定取引や流通コスト削減のため、従来からの市場経由の方式に加え、中間土場や大規模工場への直送の取組を進めています。



## 県内の主要工場取組

県内の主な合板・製材工場等を紹介します。

### 若桜木材協同組合（若桜町）

- 平成4年に、大量生産による低コスト化を目的に、町内5製材業者等が設立。
- 工場が立地する若桜町内から原木を調達。
- ユーザーニーズに応じた多種多様な製品供給が可能であり、乾燥JAS材の安定供給に取組中。



### 株式会社オロチ（日南町）

- 間伐材の高付加価値化を目的に、平成18年に第三セクターとして設立。
- 主にスギ材を活用した単板積層材(LVL)を生産。
- 地元の素材生産事業者等で組織する日南町木材生産事業協同組合が原木を供給。



### 株式会社日新（境港市）

- 平成12年に操業を開始した県内唯一の合板工場であり、針葉樹構造用合板を生産。
- 近年は、県産スギ材を始めとする国産材の使用量が増加。



### 協同組合レングス（南部町）

- 県産スギ材の有効活用を目的に平成9年に設立され、三層クロスパネルを製造販売。
- 三層クロスパネルは、建築用材として、壁倍率や準耐火構造の大臣認定を取得。



# 県民とともに進める森林づくり

## 森林環境保全税

鳥取県では平成17年度から「森林環境保全税」を導入しており、引き続き第3期目(平成25～29年度)となる制度がスタートします。

○趣旨: 森林の持つ公益的機能の発揮のための森林整備及び森林を守り育てる意識の醸成

○税額: [個人]年間500円、[法人]資本金に応じて年間1,000～40,000円

○収収額: 約170,000千円/年

### 税収の主な用途



強度間伐実施による下層植生の回復



森林体験企画等の支援



放置竹林の整備

## とっとり共生の森

県、地元市町村等が連携して森林所有者と企業との架け橋となり、企業等の森林保全に関する活動や事業を支援しています。平成18年度から県内外の16企業・団体が県内18箇所の森林保全・管理協定を締結し、森林保全活動を実施しました。



苗木の植栽



下草刈り

## J-VER

県有林での間伐などにより認証取得したJ-VERを企業に販売し、その資金を県有林の森林整備に活用する「県有林J-VERプロジェクト」を推進しています。また、同様の取組は県内各地に広がっています。

※J-VER制度は、カーボン・オフセットの普及のため、国内の森林整備によって生じた森林吸収量を認証する制度として環境省が平成20(2008)年11月に創設  
※カーボン・オフセットとは、他者が行う温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、自己の温室効果ガスの排出を埋め合わせること



県有林J-VERを活用したカーボン・オフセットの取組事例

## 森林セラピー、森のようちえん

心身の健康維持・増進を目指す「森林セラピー」や、自然の中で保育を行う「森のようちえん」など、森林の癒し効果の活用を推進するとともに、とっとり発の取り組みとして全国に発信しています。



森林セラピー



森のようちえん



## しいたけ



ほど木に発生しいたけ

「きのこ王国とっとりけん」をめざし、原木の確保、生産量の増大、品質の安定化、基盤整備等による県産しいたけの一層の品質向上と生産拡大に取り組んでいます。



雨や風による品質低下を防止



定評のある品質の高さ

全農乾椎茸品評会において2年連続3回目の団体優勝(平成24年度)

## 森林の保全

### 保安林・治山



県民の生命・財産を守るため、保安林の管理・保全に取り組んでいます。このため、気象害や松くい虫被害などにより公益的機能の低下した保安林については、植栽や保育を実施しています。このほか、山崩れの予防・復旧工事も実施しています。



冬季の季節風に伴う飛砂により、道路や農地等に被害が発生



飛砂害を防止するため、クロマツ等を植栽して海岸林を造成



海岸林が成立し、農地や道路、集落を飛砂害から保全

### 松くい虫対策

松くい虫からマツ林を守るため、駆除や予防対策を実施しています。

また、抵抗性クロマツ採種園を造成中であり、平成29年度頃には苗木の供給を開始できる予定です。



松くい虫による被害



地域におけるマツ林保護活動

地域の方々が行うマツ林の保全活動への支援も行っています。

### ナラ枯れ対策

カシノナガキクイムシによりナラ類(コナラ、ミズナラ)が枯れる「ナラ枯れ」が県東部を中心に発生しています。

被害区域の拡大を防止するため、薬剤による駆除を実施しているほか、粘着シートを使った新たな予防・駆除方法の開発※も行っています。

※アース製薬(株)、鳥取県、兵庫県による共同開発



カシノナガキクイムシが侵入した木



粘着シートの設置

ボランティア活動によるビニール被覆や粘着シート設置による予防・駆除の取り組みも広がっています。

# 試験・研究

鳥取県林業試験場では、県民の暮らしに密接に関わっている森林を健全に守り育てるとともに、森林資源の循環利用を担う林業・木材産業の振興を図るための試験研究を行っています。



## ◎ 木材利用研究室 県産材の需要拡大に関する研究



スギの厚板を活用した地震に強い壁や床の開発



製材工場と協力して低コストで高品質な人工乾燥材生産技術の開発

## ◎ 森林管理研究室 森林・林業及び林地保全に関する研究



水音を聞いて地面の下を流れる水みちの位置を調べ、山地災害発生の防止に役立つ



ナラ枯れの状況（被害木が枯死して褐色に変色）

コナラ・ミズナラをナラ枯れから守るための試験研究



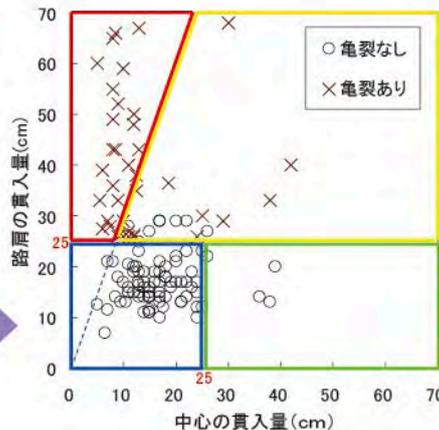
捕獲されたカシノナガキイムシ



粘着バンドによるカシノナガキイムシの捕獲



作業道の盛土の締め固めに関して、施工の良否を簡易に検査するための方法を開発



おもりを5回落下させた時の貫入量を亀裂の有無別に取りまとめ判定区分を示した図(マサ土の場合)



慶長スギ(智頭町)



発行／鳥取県農林水産部

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220

TEL.(0857)26-7296 FAX.(0857)26-8192

平成25年